

新聞販売店による自主回収の現状について

武蔵野市に新聞を配達している **26 店舗**を対象に、アンケートと聞き取り調査を実施した結果、**22 店舗**から回答をいただきました。自主回収を行っている店舗は **21 店舗**、行っていない店舗は **1 店舗**という結果となりました。

1. 販売店について

○市内、市外の販売店（26 店舗）の割合

- 武蔵野市 13 店舗
- 三鷹市 9 店舗
- 西東京市 3 店舗
- 小金井市 1 店舗

※市外の販売店に関しては、武蔵野市での配布数について対象とした。

○新聞社（6 紙）

朝日新聞、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞

武蔵野市と多摩 26 市全体との新聞購読部数比較

地区名	地区計	朝日新聞	毎日新聞	読売新聞	日経新聞	産経新聞	東京新聞
東京都 武蔵野市(扱部数)	51,400	20,250	4,250	14,500	8,000	2,200	2,200
一人当たり購読数の本市と全体との比較(本市/地区全体) *「地区全体を 100%とした場合	132%	151%	209%	92%	196%	117%	115%

*各新聞の扱部数は、(株)朝日オリコミの「新聞折込広告部数表」(2015. 10. 1 現在)による。

*一人当たり購読数を算出するにあたっての人口は「多摩地域データブック～多摩地域主要統計表～2014(平成 26)年版」による。

《これより先はアンケートへの回答のあった販売店 21 店舗からの回答をもとに集計を行った。》

2. 自主回収実施における背景・目的

- お客様サービスのため。
- 販売店回収ということが強く言われるようになったため。
- 市からの要請があったため。

3. 回収の仕組み

(1) 回収形態

各販売店により様々であるが、大きく分けて 3 通りの回収方法がある。

○自社スタッフによる回収 … **8 社**

自社スタッフが集金や夕刊の配達時に回収を行える販売店に多く見られる。
回収業者は、販売店から新聞を回収している。

○自社スタッフ+回収業者 … **5 社**

回収エリアが分かれており、エリアごとに自社スタッフと回収業者が別々に回収を行っている。

○業者 … **8 社**

回収の全てを回収業者へ任せている。しかし、電話対応などは自社スタッフが行っている。

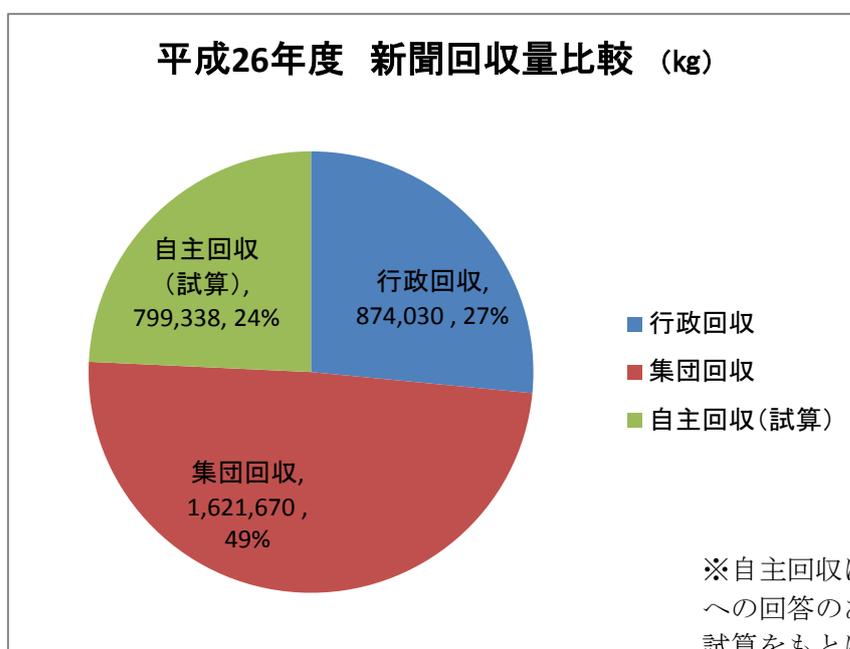
	自社スタッフ	自社スタッフ + 回収業者	回収業者	合計
店舗数	8	5	8	21
配布世帯数	30,313	8,490	44,400	83,203

※重い新聞紙の運び出しが困難な高齢者世帯からの依頼により、運び出しの補助等、個別に対応しているケースも見受けられる。

(2) 回収頻度

月1回が主流である。しかし、自社スタッフのみで行っている販売店などは、お客様から連絡があり次第、その都度回収または集金時や夕刊時に回収を行っている。

4. 回収量について



5. 回収コストについて

月々 0円～100,000円以上
(自社スタッフ人件費については含まれていない。)

《内訳》

- チラシ (回収日をお知らせするためのもの)
- 回収袋 (新聞販売店が本社系列店から購入) 3.8円～20円/枚
- トイレットロール (回収の際の交換品) 10円～22円/個

※回収業者は回収した新聞紙を問屋へ売っている為、新聞販売店から回収業者への支払いは行っていない。しかし、古紙の価格の値下がりやガソリンの高騰などの理由から、回収業者へ支払うこともある。

6. その他

(1) 自主回収を行うにあたっての販売店への支援について

本社 … 支援なし

市 … 支援なし

(2) チラシ配布数について

武蔵野市は中央線3駅をまたいでおり、特に吉祥寺は商業施設が密集し商圏が限られている為チラシの配布数は、他の地域から比べると少ない。

7. 自主回収実施にあたっての課題

○購読者への対応

販売店が回収を行うことが当たり前だと思われており、回収漏れ、ロールの置き忘れや配布しない事への苦情対応が厳しい。

○人手不足

→電話対応に人手がとられる。

→自社スタッフが回収を行っている販売店に関しては、比較的回収量が少ないため成り立っている。これ以上回収量が増えた場合、回収が難しくなる場合も考えられる。

○費用負担

トイレットロールや、本社系列店から店舗が購入する回収袋が高い。